

JR貨物ニュース

2014年12月1日発行

340号

購読料1部500円(税別) 1日、15日発行

発行所 ジェイアール貨物・リサーチセンター 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目33番8号 サウスゲート新宿5階 TEL03-6856-4323 FAX03-6856-4324 発行・編集 齊藤 和男

「エフ・プラザ東京C2棟」竣工 東京(タ)構内の優位性を活かす営業を (株)ダイワコーポレーション品川営業所

10月8日、東京タ(タ)構内に竣工した「エフ・プラザC2棟」は、総合物流事業者の(株)ダイワコーポレーション品川営業所として開所した。曾根和光社長に新施設開所への抱負、利用状況などを取材した。



「エフ・プラザC2棟」は、日本交通網が使用していた旧C2棟の建て替えにより昨年11月着工、今年10月に竣工した。敷地面積約2300坪、コンクリート造6階建(倉庫は1階・3~6階、2階は事務所)の総合物流施設に生まれ変わり、㈱ダイワコーポレーションが借り受けた。

曾根和光社長は「東京タ(タ)の一角に延べ床面積約5500坪の両面バースボックス型倉庫ができたことにより、事業拡大の好機が訪れたと氣を引き締めおります。ドライバー不足の影響で、モーダルシフトに同心を持つ荷主が年々多くなっています。鉄道貨物輸送の営業についてはJR貨物さんにはサポートをしていただけ、この立地を活かして高付加価値の物流センターとして運営していくまです」と話した。

品川営業所の片瀬寛之センター長は「現在、ほぼ半分のスペースが埋まっていますが、緊急性や定時輸送を希望する貨物の獲得を視野に入っています。JR貨物の関東支社、利用運送事業者と一緒にプロジェクトを組んで、倉庫利用と鉄道輸送をセットして営業提案をしている長期契約の条件が来年2月まとまる予定です」と現状を話した。

「東京から西側へ輸送する場合、途中まで鉄道を使う、例えば岐阜まで鉄道輸送してそこから全国一律料金で配送する事業者を利用する、東京からトラック輸送するより確実に運ぶことができコスト削減になります。交通渋滞

倉庫利用と鉄道輸送をセットで提案

いる。東京港に最短の立地の速性、横持ち費用等の削減を

高く評価している。

スローな物流で確実に運ぶ提案も

ころです。

曾根社長は倉庫利用と鉄道輸送を組み合わせた営業メニューに、新たな発想の物流を提案したい、と次のように述べた。

「コンテナ利用実績の拡大による賃料が減額できた時に料を割引し新スキーをとり入れ、オーナーと借主が鉄道輸送を軸に相乗効果を得られる仕組みを導入した。

C2棟に、鉄道コンテナ利用の拡大により、翌年の賃料を割引し新スキーを取り入れ、オーナーと借主が鉄道輸送を軸に相乗効果を得られる仕組みを導入した。

「コンテナ利用実績の拡大により賃料が減額できた時に料を割引し新スキーを取り入れ、オーナーと借主が鉄道輸送を軸に相乗効果を得られる仕組みを導入した。

C2棟前の道路に順番を待つトラックが並ぶ

ダイワコーポレーション
BLUE WING

曾根社長
は、首都圏を中心にして14棟の倉庫を運営し、取扱いのうち7割が輸出入貨物だ。通販事業者、医療系、県産品取扱い事業者など、ピッキングや梱包など付帯作業を伴うものや納期が短いものを扱うことが多い。

これまで鉄道輸送には縁がなかったが、品川営業所開所後には、同倉庫を使うと鉄道輸送に有利となるのではないかと期待を持って、問い合わせをしてくる顧客が増えて

これまで鉄道輸送には

縁がなかったが、品川営

業所開所後には、同倉庫

を使うと鉄道輸送に有利

となるのではないかと期

待を待つ、問い合わせ

をしてくる顧客が増えて

これまで鉄道輸送には

縁がなかったが、品川営

業所開所後には、同倉庫

を使うと鉄道輸送に有利

となるのではないかと期

待を待つ、問い合わせ

をしてくる顧客が増えて